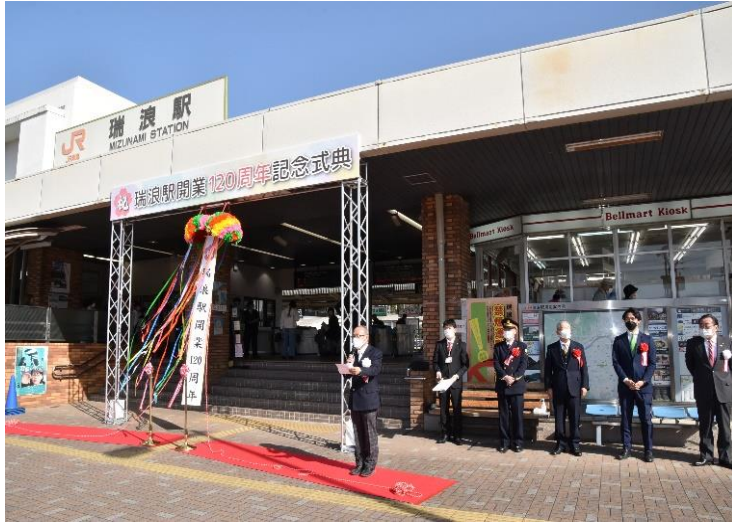


開業120周年、瑞浪駅と釜戸駅で式典、懐かしい写真も展示！



令和5年3月11日、JR瑞浪駅と釜戸駅の開業120周年を祝う式典が各駅で催され、駅やその周辺の軌跡をたどる写真展も合わせて開催されました。

又、当日、JR東海さわやかウォーキング『瑞浪・釜戸駅開業120周年記念両駅を繋ぐ「下街道」で昔の旅人気分を満喫しよう！！』も行われ、多くの人を訪れました。

私は、当時の写真を懐かしみ、スマホで撮影しながら見て来ました。撮った写真は、スマホで同級生グループラインへ転送し、見てもらいました。

1. 明治初期から昭和40年代概況

明治4年(1871)の廃藩置県により、瑞浪市は、その年から翌年にかけて岐阜県に組み込まれるなど行政・管区において、様々な改革がなされましたが、中山道は依然として主要な交通路でした。しかし、同13年(1880)に明治天皇の巡幸に伴い、下街道の改修工事が行われると交通の主要ルートは次第に下街道へと移り、同25年(1892)に下街道沿線に鉄道(中央線)が敷かれると、この動きに拍車がかかりました。また、同33年(1900)に名古屋一多治見間で開通した中央線は、同35年(1902)には中津町(現在の中津川市)まで開通し、当市には瑞浪駅と釜戸駅が設置されました。瑞浪駅が設置された瑞浪地区では急速に都市化が始まり、周辺各村の交通も当該駅を中心としたものに移行して、江戸時代以降栄えてきた中山道の交通・輸送は衰退し、大湫・細久手の両宿場町の賑わいもみられなくなりました。

一方、瑞浪市南部の陶町では明治時代から磁器生産が盛んとなり、特に明治時代後半からは、輸出用洋食器の一大産地へ発展しました。また、大正時代以降は瑞浪駅周辺に陶磁器製造・販売業者が集積するようになり、製品は鉄道などによって主に名古屋方面に販売されました。

そして、昭和26年(1951)、土岐郡瑞浪町は同郡土岐町と合併して瑞浪土岐町となり、同29年(1954)には、土岐郡瑞浪土岐町・稲津村・釜戸村・大湫村・日吉村・明世村、恵那郡陶町が合併し、現在の「瑞浪市」が誕生しました。

昭和20年代以降、市の主要産業は陶磁器や耐火物の製造、及びその原料生産などの窯業関連産業という状態が続き、特に陶町では複数の企業が日本を代表する洋食器メーカーに成長して、瑞浪市の発展を支えましたが、昭和50年代以降になると人件費の高騰などの要因により、次第に

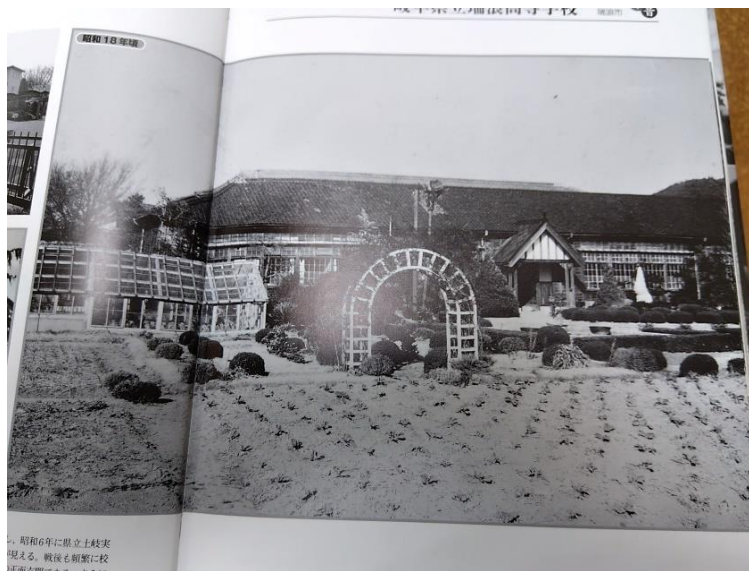
生産業者数は減少に転じました。

この間、昭和42年(1967)に着工した中央自動車道が、昭和48年(1973)に多治見-瑞浪間で開通するなど、市内各地で開発が相次ぐとともに人口も増加しました。

引用元「瑞浪市統計書」

一補足(瑞浪駅の歴史・瑞浪高校の沿革)一

- 明治32年(1899)、土岐郡蚕業講習所を開設
- 同42年(1909)、線路名称制定により、中央西線の所属となる
- 同44年(1911)5月1日、線路名称改定により、中央西線が中央本線に編入される
- 大正12年(1923)11月30日、土岐郡実業学校として、創立する
- 昭和21年(1946)4月1日、岐阜県土岐農林学校に改称する
- 昭和23年(1948)11月31日、岐阜県立土岐高等学校に改称する
- 昭和30年(1955)、岐阜県立瑞浪高等学校と改称する
- 昭和55年(1980)、現在の駅舎に改築
- 同59年(1984)、車扱貨物・荷物の取扱いを廃止する
- 同61年(1986)4月1日、みどりの窓口を設置する
- 同62年(1987)4月1日、国鉄分割民営化により、東海旅客鉄道の駅となる
- 平成4年(1992)5月16日、自動改札機を設置する
- 同15年(2003)、瑞浪高等学校、創立80周年を迎える
- 同18年(2006)11月25日、TOICAを導入する
- 令和5年(2023)、瑞浪高等学校、創立100周年を迎える



昭和18年頃の土岐実業学校、手前に農業実習の温室



昭和23年頃の土岐農林学校の正面玄関

下街道とは？

- 名古屋市中区錦二丁目にあった「伝馬会所礼の辻」を起点として、名古屋市を北東へ大曾根から恵那市の「中山道」槇ヶ根追分に至る約15里の街道です
- 明治12年(1880)は、明治天皇もこの道を巡行されました

2. 同級生からのコメント

- ・懐かしい！私達(高校時代)は、昭和42、43、44年だね （松本在住の中田さん）
- ・ほんとに懐かしいですね （東京在住の伊藤さん）
- ・これは興味深い展示会です、ゆっくり見たいです （横浜在住の長谷川さん）
- ・すごく懐かしいですね！ （多治見在住の今井さん）
- ・常盤のアーケード通りのユニーがあったね、
富士のソフトクリーム美味しかった （多治見在住の渡辺さん）
- ・うわあああ！懐かしい！写真持ってる人もすごいね！ （土岐在住の黒田さん）
- ・懐かしい！昭和39年のシキシマパンの看板、覚えてるわ！ （春日井在住の山内さん）
- ・瑞浪高等学校のルーツは、土岐郡蚕業講習所、それが土岐郡実業学校になったんですね。
創立は父が一歳の時です。父は昨年、一足早く百歳を迎えました。まだ健在。
私も妹も瑞高にお世話になりました。今年、百歳の同高にも祝福！ （名古屋在住の瀬瀬さん）
- ・私の姉は昭和42年、二人の妹は、それぞれ47年と50年の卒業生です。
父は、土岐郡実業学校時代の教諭でした。創立100周年に向けて、頑張りましょう！
（瑞浪在住の私(平野)）
- ・コラム(瑞浪在住の横井さん)
今年もいつもの年と同じように、桜は咲きました。
瑞浪駅は相変わらず今日も仕事をつづけています。が、今年は少し変化がありました。
瑞浪～釜戸駅間の開通120年を迎え、この3月に式典が催されたのです。
古い写真を見ると、多くのドラマがあったことに気づかされます。
出会いあり、別れあり……
出征兵士見送りの写真を見た時には、胸がキュンとなりました。
時代は下って、一体、何百万人(?)の瑞高生がこの駅で乗り降りしたのでしょうか。
煙が入ってこないように、慌てて汽車の窓を閉めたっけ。
担任の西本先生が、どしゃ降りの雨の中、傘もささずに背広姿で濡れ鼠、ゆっくりと瑞浪駅
に到着したのを見て、食堂のおばちゃんがあきれていたという話を思い出しました。